

## セカンドライフ

シニア投資研究会

株式、債券、為替、商品などへの投資は、とてんに勉強し、慎重に行ってもリスクがなくなるとはありませぬ。投資行動には常にリスクが伴います。それなら、リスクを避けるために投資をしない方がよいと考える人もいるでしょう。

遊に、投資活動がなくなるなどとなるかを考えてみましょう。個人にとって投資をしない最大のリスクは、超低金利の影響により銀行の利息や保険の配当金だけでは老後の生活資金が不足してしまうことです。

また、少子高齢化や国の財政悪化、社会保障による保険料の不正使用など、老後生活資金

## 株式投資

「S&P 500」に属している年金制度は膨張寸前です。新しい確定拠出年金では、加入者がその運用商品に投資するかを選択し、運用結果にも責任を持たなければなりません(自己責任)。つまり、当事者(年金加入者)が投資を監視し、嫌悪しては運用力を身につける(と)とてんできず、老後の資金不足を助うことができません。株式投資をしない個人が増えたと、企業は競争力を高めてい



イラスト：イトヒロ

望月 純夫

《もちづき・すみお》  
1949年生まれ。慶大法卒。山一証券、新日本証券をへて、96年経営コンサルタントとして独立。

## 「する」リスク「しない」リスク

①

ために必要な長期資金を集められなくなる。経済成長が止まってしまっても考えられませぬ。個人としては投資のリスクを抑えたいけれど、社会全体にとっては結果として雇用不足、消費需要の拡大不足による賃金低下を誘発する(と)にもなり、不況の原因とさえなりかねませぬ。

異方を考えるべく、投資しないリスクも、投資するリスクより大きいかも考えませぬ。

証券広報センターの「金額を増やしたい貯蓄」の調査(2004年)によると、高齢者はリスクを取って投資しています(30代前半までの預貯金比率70%以上、66歳以上は同50%以下)。実際は、若い時期ほど大胆にリスクを取って行動する(と)が求められます。失敗しても、やり直す時間があるからです。「仕事忙しいから、投資はしない」は、単なる逃げ口上に過ぎませぬ。累積投資のように、毎月自動的に一定の金額を自分が決めた企業に投資する(と)は誰にでもできます。

選挙(政治)に投票権があるように、経済には株式投資という投票権があります。ぜひ社会的責任を果たす企業、国を豊かにする企業の応援団になりましょう。

◇

団塊世代の退職に伴い、退職金だけで暮らす余裕が増える(と)されています。「セカンドライフリテック投資研究会」(info@life-ec.jp)は、団塊世代にとまらず、セカンドライフをより豊かに生きるために必要な「投資」に関する新しい形の教養という観点から、情報を提供していきます。「株式投資」「投資信託」「不動産投資」「海外投資」の4つの分野を設け、毎週、専門家が執筆を担当、基礎から応用まで解説していきます。